

令和元年 8 月 29 日 三重県少子化対策推進県民会議  
紀平委員 提出資料（三重県産婦人科医会会長）

## 乳児用液体ミルクの備蓄について

### 乳児用液体ミルク備蓄へ 県内すべての防災拠点に 三重

2019/7/19 10:00

©株式会社伊勢新聞社

鈴木英敬三重県知事は 18 日のぶら下がり会見で、乳児用の液体ミルクを今月下旬から、県内全ての広域防災拠点に備蓄すると発表した。県によると、都道府県が液体ミルクを備蓄するのは三重が初めて。

災害時に水の入手や湯沸かしが難しく、粉ミルクが使えないケースを想定して備蓄。厚生労働省が昨年、液体ミルクの製造と販売を認可し、国内初の製品が発売されたことを受けて備蓄を決めた。

県が備蓄する液体ミルクは、明治が販売している「らくらくミルク」（240 ミリリットル）で一本 215 円。賞味期限は 1 年間で、常温で保存できる。県は 6 つの広域防災拠点に計 610 本を備蓄する。

県は今回の備蓄を、災害時に国から支援物資が届くまでの「セーフティネット」と位置付ける。国も大規模災害時の支援物資に盛り込んでいるほか、県内の市町でも備蓄を検討しているという。

鈴木知事は 4 月の知事選で、液体ミルクの備蓄を政策集に盛り込んでいた。会見では「災害時の子育てに対する不安を解消し、子どもたちの成長を守るための備蓄。市町での備蓄が広がることを願う」と述べた。

全国最初に県で液体ミルクの備蓄を開始していただいたことは非常に有難いことですが、

	人口	容量	備蓄量	開始月	想定期間
三重県	178 万人	240ml	610 本	7 月～	3 日分
栃木県小山市	16 万人	240ml	2250 本	3 月～	1 日分
神奈川県厚木市	22.5 万人	125ml	456 本	3 月～	?
千葉県山武市	5.1 万人	125ml	450 本	3 月～	3 日分
大阪府箕面市	13.5 万人	125ml	600 本	4 月～	?
群馬県渋川市	7.7 万人	125ml	420 本	4 月～	3 日分
茨城県水戸市	27 万人	240ml	1000 本	5 月～	?
大阪府東大阪市	49.5 万人	240ml	1680 本	7 月～	?
新潟県長岡市	27 万人	240ml	400 本	8 月～	?

あまりにも備蓄量が少ないと思いましたが、全国の他市の状況を調べてみました。

※ 三重県の備蓄は、215 円×610 本＝13 万 1150 円

分娩施設入院中の新生児は、1 日平均 320ml 程度のミルクが必要と推定されます。分娩数月に 60 件の場合 1 日 2 人生まれ、6 日間の入院とすると毎日 12 名の新生児が入院しています。ライフラインの回復を 3 日とすると  $320\text{ml} \times 12 \text{名} \times 3 \text{日} \div 1 \text{本} 240\text{ml} = 48 \text{本}$  の備蓄が必要です。三重県全体では、月に 1000 人以上の赤ちゃんが生まれますので、分娩施設だけでも  $1000 \div 60 \times 48 \text{本} = 800 \text{本}$  以上の備蓄が必要と思われます。したがって各市町へも備蓄を強く促していただく必要があります。また、食品ロスを防ぐため期限切れが近いものは、乳児健診時に無料で配るなどのローリングストックを検討していただくことを要望します。